

山形大学・立命館大学 包括的協力協定 締結式

2008年6月19日

山形大学 学長 結城章夫
立命館大学 学長 川口清史

山形大学と立命館大学との 包括的協力協定の締結について

- 締結の背景 - 大学間連携の時代
- 山形大学および立命館大学の特徴
- 連携協力の特徴
- 両大学の連携協力具体例紹介

協定締結の背景 - 大学間連携の時代

- 大学教育の大衆化とグローバル化
教育の質保証を国際水準で担保
FD活動を通じた教育力強化
大学間が連携して取り組む必要性
- コンソーシアムの動き
地域コンソーシアム(全国38箇所)
テーマ型ネットワーク
- 各大学の動き
単独間の大学連携、複数の大学間連携等、様々な事例



キャンパスプラザ京都
(大学コンソーシアム京都)

山形大学の特徴(1)

- 学生が主役
学長が「学生が主役の大学づくり」を行動計画として掲げ、「YUサポーターティングシステム」や「山形俊才育成プロジェクト」など独自の手厚いサポートを展開



山形大学キャンパス

- 地域密着
県内4キャンパスを中心にソフト型キャンパス「エリアキャンパスもがみ(現代GP)」や「地域特性を生かした分子疫学研究(21世紀COE)」など山形ならではの地域に密着した教育・研究を実施
また県内外6つのサテライトオフィスも活用し、大規模な産学官連携を展開

山形大学の特徴(2)

- 質の高い人材育成
「地域ネットワークFD“樹氷”(現代GP)」
や東日本地域の「FDネットワーク“つばさ”」
など国内随一の実践的FDの実施により、
質の高い人材育成を展開(平成19年
度医師国家試験合格率は国立大学中
最高)



山形大学キャンパス

- 環境への配慮
「自然と人間の共生」を理念とし、「環境報告書」の作成(環境goo大賞奨励賞)、国立大学初のESCO(Energy Service Company)事業の導入などの環境への配慮により、カルガモの親子やホタルが生息するキャンパスを実現

立命館大学の特徴(1)

- 連続的な改革(1979年～)
国際水準の人材育成を目指して、
連続的な改革を展開
- 国際化
1988年国際関係学部設置、2000年
立命館アジア太平洋大学を開設、
世界56カ国・地域、339大学・機関との
国際ネットワーク(2008年5月現在)、
2005年国内初の立命館孔子学院を設立
- 社会的要請にもとづく自然科学系改革
2008年生命科学部・薬学部を開設、理工系で4学部を擁する私学最大
規模の理工系学部・大学院
- これまでの国内大学との連携
滋賀医科大学(2002年～)、京都府立医科大学(2005年～)、
関西医科大学(2007年～)、京都大学(2007年～)



立命館大学衣笠キャンパス

立命館大学の特徴(2)

- **大規模総合私立大学の特色を活かした「ピアエデュケーション(学生同士の学びあい)」による学びのコミュニティ形成の取組み**
オリター(先輩による新入生、導入期教育支援: 1960年代～)、**教育サポーター**(ES・先輩学生による正課科目内の支援)、**プレスマントリーダー**(就職活動時に学生同士の支えあいを推進するリーダー)、**ジュニアアドバイザー**(就職した先輩による現役学生支援)、**ライブラリースタッフ**(図書館活用支援)、**レインボースタッフ**(情報ツール活用支援)など
- **大規模総合私立大学の特色を活かしたFD活動**
独自のFDの定義(2007年)、**教育改革総合指標・行動計画(TERI)の導入**(2007年～)、**学生FDスタッフの活動**(2006年～)
- **SDの取り組み**
大学行政研究・研修センターの設置(2005年～)
- **高い水準の教育・研究**
21世紀COE 3件、G-COE 3件、GP 15件



立命館大学びわこ・くさつキャンパス

両大学に共通する精神

- 山形大学
伝統的に教育に力を入れており、
「**学生が主役となる大学創り**」を
コンセプトに掲げる

- 立命館大学
学生相互の学び合いを重視し、
「**学習者を中心とした教育**」を
コンセプトに掲げる

- 両大学に共通する精神
「**学生を中心**」とする教育



山形大学キャンパス



立命館朱雀キャンパス

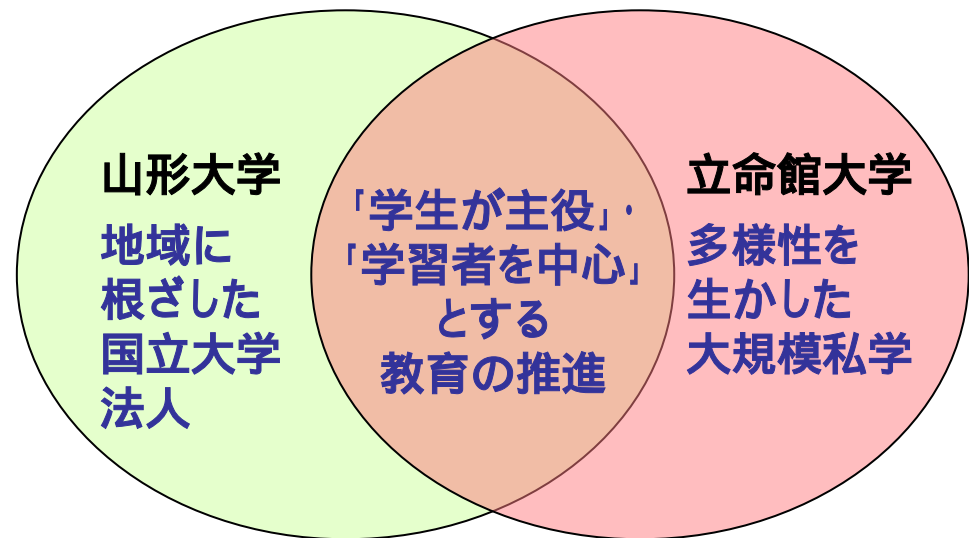
山形大学と立命館大学との連携の意義

「学生が主役となる大学創り」・「学習者を中心とした教育」を
両大学の連携によって更に推進する

- 時代背景：大学間連携による教育・研究の質の向上

山形大学と立命館大学の特徴

- 両大学の教育の重点と連続的な改革の実施は同じ
- 国立と私立、山形と京都など、両者の異質性
地域に根ざした国立大学法人と多様性を生かした大規模私学の特徴も明確化

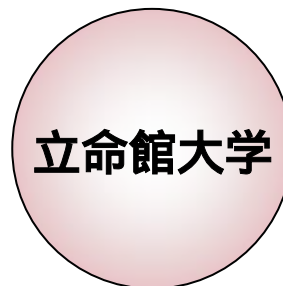


山形大学と立命館大学との連携協力

・昭和24年(1949年)設置。約1万人(学部7,971名、大学院生1,313名 2008年5月1日現在)の学生を擁する東日本有数の総合国立大学

・「地域に根ざし、世界をめざす」を合言葉に、「優れた教養」と「高い専門性」を備えた卒業生を社会に送り出すことをミッションとして掲げる

・学生中心の大学創り



・1900年(明治33年)創立。約3万6千人(学部33,013名、大学生3,302名 2008年5月1日現在)の学生を擁する総合私立大学

・「自由と清新」を建学の精神とし、地球市民を育成する多文化共生教育が特徴

・学習者を中心とした教育

山形・国立大学法人の山形大学と京都・私学の立命館大学の協力融合・相互連携により、2校の学生交流を促進し、教育の高度化を追求する。

両大学長の講演会

学生交流

職員交流

連携事例

両大学長の講演会

包括協定の意義・目的を全学で共有する。

- **結城章夫学長による講演会**
日時: 7月3日(木) 13:30 ~
場所: 立命館大学朱雀キャンパス
- **川口清史学長による講演会**
日時: 10月17日(金) 予定
場所: 山形大学



学生交流

< 交流内容 >

各大学が「学生中心」の大学づくりを進めるために、正課・課外の両面から以下のテーマに取り組む。

これまでの両大学の取組みを共有し、現在抱える課題や特徴を調査・分析し、意見交換を行う。

交流で得られた成果をまとめ、それぞれの学長に報告する。

< 交流テーマ >

(正課) 学習者中心の教育づくり

相互のFD活動の紹介・共有を通じ、学生の立場から新たな提言

(課外) 地域に生きる大学づくり

異なる文化圏における学生の地域連携・交流のあり方を経験・共有し、学生の立場から新たな活動を提言

< 交流の方法 >

大学訪問・Webツールを活用した事前・事後学習、交流

< 交流メンバー >

各分野で積極的に活動している学生を中心に5～10名で編成する。

職員交流

□若手職員における改善案の提言

- 両大学の若手職員が、大学が共通して抱える現代的課題について、共同の作業グループを編成し検討。お互いの学長に対して、改善提案を行う。
- 両大学の職員の送り出し、受け入れ等も検討する。

ご清聴、ありがとうございました。